

JAXA の遠藤室長が河内山理事の代理として資料 17-1-1(打上げ・追跡管制計画書)と、資料 17-1-2(打上げ実施体制)を続けて説明した後、JAXA の井上理事が資料 17-1-3(SELENE 概要)の説明を続け、その後、若干の質疑応答が行われた。(今回の H- A から三菱重工業が「打上げ事業者」として「打上げサービス」を執行する。このため MHI に「打上げ執行責任者」を頭に、執行体制を作る。また、ミッションは「SELENE の月周回軌道投入」であり、H- A の投入軌道は静止トランスファ軌道によく似ている。遠地点が高いことと、第 2 回の噴射のタイミングが異なる以外は、警戒区域、落下物の領域など、静止トランスファ軌道への投入とよく似ている。本年の夏期打上げであるが、日時は未設定である。月との相対位置でウィンドウが決まるので、打上げ日が変わると打上げ時間が変わる。)

松尾:ウィンドウはどれ位開いているのか。

JAXA 遠藤:夏期だと月に一週間程度である。

青江:安全部会が審議をするわけだが、その際、赤旗を降ろすとか、通報するとか、動詞が書いてあるが、其れの主語である「誰が<sup>1</sup>」を逐一確認しておいて欲しい。何か議論があったときに「誰が」を答えられるように整理して置いて欲しい。

JAXA 遠藤:安全部会では、地上安全・飛行安全の計画書を審議いただくが、そのときには行為の主体者が明確になるよう

<sup>1</sup> 此れは井口前委員長がよく言っていたことで、癖(へき)のようではあるが、許容できる範囲と思っていた。しかし、定例化するようでは困るのではないか。世界に開示すべきことではないだろう。

に整理する。

青江:もう一点井上さんに聞きたいが、SELENE の開発移行段階の事前評価のとき、今のようなサクセス・クライテリアを明確にする時代ではなかった。地球の出を観測することについて、これを行うことは結構だと思っているが、目的としてサクセス・クライテリアの項目に入っていたのか。

JAXA 傍聴席から:入っていなかったように思う。科学ミッションの遂行については、サクセス・クライテリアにあったが、これ自体は入れていなかったと思う。一昨年(2010年)の6月か7月の宇宙委員会だったと思うが、其処で報告させていただいた。

青江:望むものでは全く無いものの、撮れれば大変魅力的だと思うが、事後評価のときに対象外に置いて良いわけか。

JAXA 井上:確認を致しますが、そういう理解だと思う。

森尾:第2段エンジンは、衛星を切り離れた後も回っているのであろうが、何日、何ヶ月、何年、どの位回っているのか。

JAXA 遠藤:先程の説明で跳ばしたが、月遷移軌道に入れるので遠地点が約 23 万キロになる。近地点が約 250 キロと、非常に長楕円になる。月に非常に近くなるので、月の引力の影響を受ける。そのため、飛んだときの月と地球の位置関係により異なる。どの 2 段でも大気圏に突入するのであるが、特にこの軌道の場合には、月の影響に左右され、一月程度で落ちる場合と 1 年以上掛かる場合がある。

松尾:よろしゅうございますか。楽しみにしております。楽しみと申し上げるが、プレッシャーを掛けるつもりはございません。よろしく願います。